吉野ヶ里町立東脊振小学校　学校だより　第１３号

ひびきあい

学校教育目標
「やさしく かしこく たくましく
自分のよさを生かして
未来を創ろうとする子ども」
の育成

令和8年10月16日 校長 重松 景二

愛でいっぱい、学びでいっぱい、遊びでいっぱいの学校にする

アップデートしよう（未来を創る子どもたちのために）

涼しくなりました 涼しい風…



田んぼのあぜ道にずらりと並び、きれいに咲いていた彼岸花も、少々元気がなくなってきました。秋の深まりを感じます。彼岸花に代わって、コスモスがきれいな花を見せてくれ、心が安らぎます。最近は、コスモスが一面に広がる花畑も各地にあり、色とりどりの花が目を楽しませてくれます。



今週は、修学旅行とバス旅行がありました。インフルエンザの注意報が出ているようですが、本校では感染が広がることなく、無事に出かけることができて、ほっとしています。どの学年も楽しく学ぶことができたようで、子供たちにとって、よい思い出になったことでしょう。

科学の教室　空に輝く…



10 月８日は、６年生を対象に科学の教室が開かれました。この教室は、佐賀県教育委員会の取組で、希望する学校の中から選ばれた学校に講師が派遣されるものです。今回の講師は、佐賀市星空学習館の早水先生でした。

２学級合同で理科室に入り、まずは話を聞きました。地球と月、太陽の大きさを比べたり、惑星と曜日のつながりについて聞いたりしました。その後、外に出て、望遠鏡を太陽に向け、太陽投影板に映し出された黒点を観察しました。また、望遠鏡で百年記念塔を見たり、順番を待つ間には遮光板を使って実際に太陽を観察したりしました。普段はなかなか見ることのできない黒点の様子や望遠鏡を通して逆さに見える百年記念塔に、子供たちは驚いていました。その後、再び理科室に戻り、質問タイムとなりました。15 分間の予定でしたが、時間内に収まりきれないほどたくさんの質問が出され、子供たちの関心の高さがうかがえました。「宇宙はどんな形ですか」「一番遠い星に行くには、どのくらいの時間がかかりますか」「星の数はどれくらいですか」「一番大きな星は何という星ですか」など、早水先生もすぐには答えるのが難しいような質問も出ていました。



宇宙には、まだ分かっていないことがたくさんあります。答えることが難しい質問もありましたが、早水先生は、現在分かっていることを交えながら、一つ一つ丁寧に答えてくださいました。今回の科学の教室を通して、子供たちは宇宙の不思議さや面白さに触れ、宇宙への興味や関心をさらに深めたのではないでしょうか。

自分たちで決める　代表委員会にて…



10 月 13 日は、代表委員会がありました。４年生から６年生までの各学級の代表と委員会の委員長が出席し、運営委員会の進行で話合いを行います。議会のように、参加した子供たちが意見を交わし、様々なことを決めていきます。今回の議題は「みんなが正しい服装で学校生活を送るようにしよう」でした。この議題は、子供たち自身が学校生活の中に問題を見つけ、改善したいと考え提案したものです。自分たちの学校生活をよりよくしようと、自ら考えて行動していることを立派だなと思いました。話合いの結果、各学級で服装について確認することを前提に、朝の放送やポスターで全校に呼びかけることが決まりました。

学校には校則がありますが、以前のように細かく厳しく決められたものではありません。だからこそ、その範囲内で、自分たちが気持ちよく学校生活を送るためにはどうすればよいかを考え、行動することに意味があると思います。今回の代表委員会は、子供たちが主体となって学校をよりよくしていこうとする姿が見られた会でした。これからの取組が楽しみです。